

製品名: MIP-5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13912**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CCL15
別名	C-C motif chemokine 15 (Chemokine CC-2;HCC-2;Leukotactin-1;LKN-1;MIP-1 delta;Macrophage inflammatory protein 5;MIP-5;Mrp-2b;NCC-3;Small-inducible cytokine A15) [Cleaved into: CCL15(22-92); CCL15(25-92); CCL15(29-92)]
遺伝子 ID	6359.0
SwissProt ID	Q16663
免疫原	AA 範囲: 51-100 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

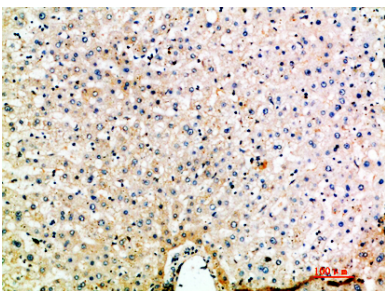
背景

この遺伝子は、17番染色体の同じ領域にある類似の遺伝子のクラスター内に位置しています。これらの遺伝子は、隣接する2つのシステインを特徴とする分泌タンパク質であるCCサイトカインをコードしています。この遺伝子産物はT細胞および単球に対して走化性を示し、C-Cケモカイン受容体1型(CCR1)を介して作用します。このプロタンパク質はさらに多数の小さな機能性ペプチドに加工されます。この遺伝子から下流遺伝子CCL14(ケモカイン(C-Cモチーフ)リガンド14)への自然発生的なリードスルー転写が起こります。[RefSeq提供、2013年1月]、機能:T細胞および単球を誘引するが、好中球、好酸球、B細胞は誘引しない走化性因子。主にCCケモカイン受容体CCR1を介して作用します。CCR3にも結合します。CCL15(22-92)、CCL15(25-92)、およびCCL15(29-92)は、低分子誘導性サイトカインA15よりも強力な走化性因子である。機能:ヒト単球に対する活性は弱く、MIP-1 α を認識する受容体を介して作用する。100~1,000 nMの濃度で細胞内Ca(2+)濃度の変化と酵素放出を誘導したが、走化性は誘導しなかった。Tリンパ球、好中球、および好酸球に対しては不活性であった。CD34陽性骨髄系前駆細胞の増殖を促進する。処理された形態のHCC-1(9-74)は、単球、好酸球、およびT細胞を引き寄せる走化性因子であり、CCR1、CCR3、およびCCR5のリガンドです。、オンライン情報:CCL14 エントリ、オンライン情報:CCL15 エントリ、PTM:HCC-1(1-74)は部分的にOグリコシル化されていますが、HCC-1(3-74)とHCC-1(4-74)は部分的にOグリコシル化されていません。O-結合型グリカンは、1つのGal-GalNAc二糖から構成され、さらに2つのN-アセチルノイラミン酸によって修飾されています。、PTM:N末端が処理された形態であるHCC-1(3-74)、HCC-1(4-74)、およびHCC-1(9-74)は、血液中に分泌された後、タンパク質分解によって少量産生されます。、類似性:インタークリンベータ(ケモカインCC)ファミリーに属します。、サブユニット:モノマー。、組織特異性:脾臓、肝臓、骨格筋および心筋、腸、および骨髄など、いくつかの正常組織で構成的に発現し、血漿中に高濃度(1-80 nM)で存在します。、組織特異性:心臓、骨格筋、副腎に最も多く存在します。胎盤、肝臓、脾臓、および骨髄には低濃度で存在します。CCL15(22-92)、CCL15(25-92)、CCL15(29-92)は関節リウマチ患者の滑液中に高濃度で検出されています。

研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;ケモカイン;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された